



キリスト者として生きる

現代社会の座標軸をもとめて

第20回

森本あんり

もりもと あんり
国際基督教大学教授

もつとゲームを

日本社会はいつたいうようになってしまったの
だろう、と思わされるような事件が、次から
次へと起こっています。神戸の事件以来でし
ようか、少年による凶悪事件が起きると、き
まって「ゲーム感覚で」という一言が出てき
ます。

「ゲーム」というと、今ではもっぱら「テ
レビゲーム」のことを指すようになってしま

いました。その言葉の起源を尋ねると、オ
リンピックに行き着きます。ギリシアの人々
は、スポーツに限らず、音楽でも弁論でも
「競技」(ゲーム)をいたしました。競技には
「勝ち負け」がつきものですから、彼らはさ
ぞかし好戦的な人々だったのだろう、と思
いがちですが、実はそうでもありません。むし
ろその反対で、競技は平和な社会を作るの
に役立ちます。暴力によらずに争い、公平なル
ールで競うからです。だからオリンピックは、
「平和の祭典」なのです。

競技は、一人ではできません。相手が必要
ですし、審判も必要です。そして何よりも、
まわりで声援を送り、その健闘ぶりをたたえ
る観客が必要です。実は、ゲームの精神こそ、
成熟した市民社会を作るのにふさわしい精神
なのです。

人は、ゲームに参加することで、孤立と不
安を逃れ、他者と連帯する道を知ります。相

手と正当に競い、公平な審判を受け、その結
果を受け入れることを学びます。少年たちが
「ゲーム感覚で」犯罪を犯す、という言い方
を聞くと、そういうゲームの精神の尊さが見
失われてしまうような気がいたします。ゲー
ムのやりすぎではなくて、むしろやらなすぎ
ることが問題なのではないでしょうか。

ゲームには、必ずルールがあります。それ
ぞれのゲームのルールばかりではなくて、ど
んなゲームでも、ゲームというものを楽しむ
時には、いつも守らなくてはならない、一般
的なルールです。

たとえば、ゲームは、対等な競技者の間で
行われます。圧倒的に力の違う相手には、ハ
ンデイがつけられます。また、ゲームには、
命にかかわるような決定的な利害を賭けませ
ん。命がけのゲームは、ゲームではなく、た
だの殺し合いです。さらに、ゲームでは、い
ったん勝ち負けが決まったら、それを潔く受

人は、ゲームに参加することで、

孤立と不安を逃れ、他者と連帯する道を知ります。

相手と正當に競い、公平な審判を受け、

その結果を受け入れることを学びます。

少年たちが「ゲーム感覚で」犯罪を犯す、と聞くと、

そういうゲームの精神の尊さが見失われてしまう

ような気がいたします。

入れる覚悟が必要です。負けるたびにリセットして勝つまでやる、というのはゲームではありません。そして最後に、ゲームというものは、お互いの了解のもとで始められ、終始人々が見守る中で、みんなの承認を得て進められる、共同事業です。

今夏の高校野球の決勝戦を思い出してください。すばらしいゲームでした。実力伯仲の両チーム。ゲームでもう一つ大事なことは、勝敗が純然たる実力だけでは決まらない、ということ。そこには、本人たちの実力とともに、彼らにはどうすることもできない「偶然」の要素が含まれています。まさに、「勝負は時の運」なのです。

つまり、ゲームは単なる「実力闘争」ではありません。人はそこで、自分の運命が最終

的には自分の自由になるものではない、自分の力を超えた何ものかの支配のもとにある、ということ。これを学びます。ゲームは、人間の限界を教えてください。その限界の中で、なお努力を傾けてやまないところに、人間の本当の尊さを見ることが出来ます。

オリンピック選手の中には、敬虔な信仰をもった人々が少なくありません。試合やレースの直前に、彼らが祈る姿を、私たちも時々目にします。疑いもなく、彼らは長い間、厳しい練習を重ねてきた、最高の実力者たちでしょう。けれども、そういう彼らであるからこそ、勝利というものは、自分の力だけで手に入れることができるわけではない、ということを知っているのです。そこに、ゲームの精神の尊さがあります。だからわたしたちは、

勝った者にも敗けた者にも、等しく賞賛を贈ることが出来るのです。

わたしたちの人生には、どんなに避けようとしても、競争があり、勝敗があります。その現実から目を逸らして、愛や平等だけを説くわけにはゆきません。パウロも、しばしば競技や競走について語っています。「あなたがたも賞を得るように走りなさい」(1コリント9:24)。ただしこの競技は、「朽ちる冠」ではなく、「朽ちない冠」のためになされません。つまり、競技の最終判定者は神です。

わたしたちには、それぞれ神さまの前に走るべき道があります。その道のりを、賞を得ることができるよう、精いっぱい真剣に走りたいと思います。そして、その結果を神に委ねたいと思います。地上にあるわたしたちは、ゲームで感謝や謙虚さを学び、ともに相手を認め合う仲間を作ることが出来ます。それが、公共社会の枠組みを作り、人々の交わりを育ててゆくのです。願わくは、大人たちも、いや大人たちこそが、ゲームを大いに楽しんで、子どもたちのよい模範となること出来ますように。

それにしても、最近のオリンピックは、監督も選手も開催者も、あまり青少年の模範にならないような話が伝わってきますね。さて、次の開催地は、フェア・プレーの精神で決まるかな。